

4段階評定 4:期待以上 3:ほぼ期待どおり 2:やや期待を下回る 1:改善を要する

項目	評価指標及び具体的目標	自己評価	自己評価結果の考察・分析及び改善策等	関係者評価	学校関係者評価委員の意見
I 町民総ぐるみによる教育の推進	1 学校や家庭、地域等が一体となって取り組む教育を推進する。 ・地域の物的、人的教育資源の有効活用（各学年：年5回以上） ・家読（うちどく）の奨励 ・保護者との協働による生活リズムの推進	3.5	○ 参観日の出席率(4月:87%、7月:82%、9月:86%、12月:81%、1月:85%) 【参考28年度4月:85%、7月:80%、9月:84%、12月:81%、1月:75%】 ○ PTAの有志の方々により結成された「PTAあいさつ応援隊」が、毎週火曜日に実施しているあいさつ運動に参加してくださるようになった。地域見守り隊の方々や高学年児童と一緒に、今まで以上に大きな声で元気よくあいさつできている。 ○ 家庭読書の充実の働きかけ(教職員の評価:肯定的回答86%)【参考28年度83%】 ○ 健康生活週間を毎月設定することにより、意識付けが図られている。結果を給食時間に放送で報告することで、児童の励みになり、週末に近づくほど結果がよくなってきた。	3.8	<input type="checkbox"/> 参観日の出席率が28年度を上回り、学級懇談会の出席率も上がってきており、よい傾向にある。ただ、12月の学級懇談会の出席率が低いのが気になる。
	2 家庭や地域の教育力の向上に努める。 ・学級懇談会等の充実(年6回) ・家庭・地域との連携による登校指導やあいさつ指導（PTA登校指導:年3回） ・家庭教育学級の活性化		○ 学級懇談会の出席率(4月:57%、9月:50%、12月:38%)【参考28年度4月:64%、9月:43%、12月:35%】 ○ 7月参観日に実施した地区懇談会の参加者数は約80名。今年は、高鍋警察署生活安全課スクールサポーターの桂俊行氏の講話を聞いた後、地区ごとの協議を実施した。 ○ PTAによる登校指導を6月と9月、1月に実施。 ○ 家庭教育学級は計画的に実施中。		<input type="checkbox"/> PTAのあいさつ応援隊の結成は、素晴らしい。早朝よりPTA役員を中心に登校時のあいさつ運動を実施し、あいさつ習慣を身に付ける指導の大事さが感じられる。
	3 開かれた学校づくりを推進する。 ・組織としての学校運営の活性化 ・学校評価を生かした教育課程の改善 ・積極的な情報発信 ・オープンスクールの実施		○ 組織的な分掌・学年運営(教職員による評価:肯定的回答100%)【参考28年度96%】 ○ 教職員による評価を7月に実施し、その結果をもとに校務部会で各部の実効策について課題と改善策を確認し、教育課程実施の改善に努めている。 ○ 児童・保護者のアンケートは11月に実施し、教育課程実施の改善に努めている。 ○ 学校だよりを毎月1回発行。ホームページでの情報発信に努め、29年度に入り63回行事等の記事を掲載している。 ○ 学校行事を新聞社へ掲載依頼し、9つ記事として掲載された。(1月末現在) ○ 児童作品を新聞社へ積極的に投稿し、19作品が掲載されている。(1月末現在)		<input type="checkbox"/> 普段の仕組み・行事等において、家庭や地域への働きかけが今年度もしっかり行われている。 <input type="checkbox"/> 学校だよりの月1回発行、ホームページへの掲載など情報の発信を積極的に行っている。 <input type="checkbox"/> 家庭読書の習慣ができてくると学力向上にもつながると思う。

II 生きる基盤を育む教育の推進	1	就学前教育の充実を図る。 幼保小連携の推進、就学前の幼児理解と関係機関との連携・充実	3	<ul style="list-style-type: none"> ○ 幼保小連携協議会を開催し、1年の授業を幼稚園・保育園の先生方に参観してもらった後、情報交換を行った。 ○ 夏季休業中に、来年度入学する子どもが在園する幼稚園等を、本校職員が訪問し、年長児の様子を観察したり、情報交換をしたりした。 	3.5	<ul style="list-style-type: none"> □ 基礎的・基本的な学習内容の確実な定着を図るため校時程を工夫する等、様々な工夫や努力が評価できる。 □ 教育相談アンケートを毎月実施し、児童の困りごとにいち早く対応されているのは、いじめ等の問題解決にもつながっていると考える。 □ 縦割りの清掃活動や青少年赤十字加入、ボランティア活動などは、人とのつながりや心の豊かさがつくられる教育だと思う。 □ 水泳指導等特別な技能が必要となる内容については、今後も外部講師と連携した指導が実施されるとよい。 □ 就学前の子どもの様子をすることは、1年生のスムーズなスタートにつながる。就学前教育への取組がすばらしい。
	2	<p>確かな学力を育む教育を推進する。</p> <p>(1) 基礎的・基本的な内容の確実な定着を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「がってんタイム」の計画的な運用と評価 ・家庭と連携した学習指導の充実(家庭学習の手引きの活用) ・単元テスト80%以上の定着とCRT調査の全国平均達成 <p>(2) 望ましい学習習慣を身に付けさせる。 【小中連携項目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予鈴着席、チャイム黙想の徹底 ・話を聞く態度の育成(立腰指導の重視) <p>(3) 読書指導を充実する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読書への興味関心を高める工夫(おすすめの本、読書ビンゴ、平行読書の導入等) ・読書習慣の定着(朝の読書、地域や児童相互の読み聞かせ等) ・ファミリー読書の推進(ファミリー読書カードの活用、町立図書館との連携等) 	3	<ul style="list-style-type: none"> ○ 基礎的・基本的な内容の確実な定着を図るため、各学年・学級で「がってんタイム」を計画的に運用することができた。個別指導の充実を図るため、29年度より校時程を工夫し、金曜日の帰りの会の後、30分間の「学びの時間」を設定した。2学期からは、校時程を変更し、昼休み・学びの時間・5校時・帰りの会の順で行うことで、学習意欲を維持させ個別指導の充実を図っている。 ○ 学期の最終週を「学力向上週間」とし、学習内容の定着を意識する場を設けた。 ○ 年度当初に、学年ごとに学力向上パワーアップシートを作成し、具体的な対策を立てて実践している。また、夏季休業中に、1学期の指導の成果と課題を検討し、今後の取組[改善策]を作成して2学期からの指導の視点を明確にした。 ○ 学習は立腰で始まり、立腰で終わることができるようになってきている。あらゆる時と場において、立腰の言葉でよい姿勢をとろうとすることができる。 ● 相手の話を聞いての反応はまだまだである。意識して聴く習慣を身に付けさせるよう、継続して指導していく。具体的には、話の後に、復唱させたり、確認の質問をしたり、スピーチ後の感想を述べさせたりしていく。聞く指導と併せて言葉遣いも指導していく必要がある。 ○ 読書に関しては、学年部ごとの目標冊数(チャレンジ5!)に取り組み、多読賞を表彰することで、意欲付けが図られた。 ○ 読書旬間の取組では、ファミリー読書など取組の差はあるものの、全体的には意欲的に取り組んでいた。 		
	3	<p>豊かな心を育む教育を推進する。</p> <p>(1) 生徒指導の三機能(自己存在感、共感的な人間関係、自己決定の場)を生かした教育活動を推進する。【小中連携項目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育相談アンケート(毎月)によるいじめ等の早期発見と解決 ・えがお推進委員会(毎月)による児童の共通理解と共通実践 <p>(2) 教児同行「共汗・協働」を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・縦割り清掃、無言清掃の徹底 ・ボランティア活動の推進 	3	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教育相談アンケートを毎月実施することにより、児童が困っていることを先生へ知らせるよい機会となっている。また、児童からあがってきた困っていることに対して、全職員が早急に対応し、早期解決を図っている。 ○ 問題行動が発生した場合は迅速に報告・連絡・相談を関係職員と行い、事案によっては内容を整理し、共通理解を図った。また、問題行動を未然に防ぐために、放送をとおして啓発を行った。 ○ 毎朝校舎に向かってあいさつを行うことや、5年生のあいさつ運動、毎週火曜日の「あいさつ運動の日」、PTAの「あいさつ応援隊」は定着した。児童作成のあいさつ啓発標語を廊下に掲示し、あいさつの大切さを呼びかけた。 ○ 縦割り清掃では、上学年が下学年の児童へ雑巾の拭き方指導をすることで、無言で一息懸命清掃する姿が見られる。個別の称賛を行うことで、意欲を高めている。 ● あいさつ運動をしている前を、黙って通り過ぎる児童もいるので、登校班長への指導や学級での全体指導をとおして、あいさつの徹底を図っていく。業間に廊下ですれ違う際は、会釈を推奨していく。 		

<p>4 健やかな体を育む教育を推進する。</p> <p>(1) 体育科授業の充実を図る。【小中連携項目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体力向上プランに基づく個や集団に応じた体力づくり ・体力向上週間の計画的実施(持久走や縄跳び運動) <p>(2) 食に関する指導を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「早寝、早起き、朝ご飯」の実践と生活習慣の確立 ・「弁当の日」の充実 <p>(3) 保健・安全教育を推進する。</p> <p>年間指導計画に沿って、性教育や薬物乱用防止教室、安全点検を実施し、日常的な保健・安全指導に努める。</p>	<p>3</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教科体育指導の充実(教職員による評価:肯定的回答100%)。水泳指導時には、学級担任以外の教職員も加わって指導を行った。また、水曜日の放課後、外部講師(福寿園施設長:押川英文氏他2名)に協力いただき水泳記録会に向けた水泳指導を行ったことで、記録の伸びた児童が増えた。 ○ 「ボール運動」の領域の授業を充実させていくために、夏季休業中に体育実技研修を実施した。 <p>※ 体力向上週間は、2・3学期に計画とおり実施し、体力の向上を図ることができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 食に関する指導として、ランチルーム給食で、おにぎり作りをしたり、スイートコーンやヤングコーンを実際に見せたりして食への関心を高めることができた。 ○ 5月の弁当の日では、80%以上の児童が弁当作りに関わることができた。 ○ 給食感謝週間には、共同調理場での調理の様子を撮影・編集して児童に動画を見せた。給食を作ってくくださる方々の様子を視覚的に理解させたことで、感謝の気持ちを高めることができた。 ○ 学級活動の年間指導計画に性教育が入っていた学年は、保健室の資料を活用し、授業を実施することができた。 <p>● 体力テストの課題は、男女とも握力、反復横とび、立ち幅跳びである。今後、敏捷性・跳躍力を意識した指導が必要である。</p>
<p>5 共生社会を目指す特別支援教育の充実を図る。</p> <p>児童一人一人の教育的ニーズを把握し、その可能性を最大限に伸ばすための教育を推進するとともに、特別支援教育研修の充実に努める。</p>	<p>3</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 特別支援学級の児童一人一人のニーズに応じるために、毎日保護者と連絡帳をとおして連携を図ることができた。また、夏季休業及び冬季休業中に保護者との個人面談の機会を設け、指導によってできるようになったことを伝えたり、これから身に付けさせたいことなどを確認したりすることができた。 ○ 夏季休業中に外部講師(るびなす支援学校チーフコーディネーター海老原先生)を招いて、「配慮を要する児童生徒への支援の在り方」について研修を深めた。
<p>6 人権が尊重される社会を目指す教育を推進する。</p> <p>人権教育担当や道徳教育推進教師を中心に、豊かな心を育む授業実践と教職員の人権感覚を育むための研修の充実に努める。</p>	<p>3</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 年3回、これまでの教育実践を振り返りながら「人権に配慮した指導はどうあるべきか」について研修を深めることができた。 ○ 道徳の教科化に向けた準備として、夏季休業中に職員研修を実施した。
<p>7 技術革新で国際化の進展に対応する教育を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICTの活用と研修の充実 ・外国語指導助手との交流促進 	<p>4</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各学級に電子黒板等が整備してあるので、授業での効果的な活用を図っている。また、町教育研究所が主催したICT活用の研修会に本校より4名の職員が参加して研修を深めることができた。また、9月25日にICT活用の在り方をテーマにした研究授業を実施した。事後研では、鹿児島大学の山本先生を招いてICT機器活用の在り方について研修を深めることができた。 ○ 町教育委員会と連絡・調整を図りながら、外国語指導助手との授業実践を計画的に実施している。

Ⅲ 推進 した 社会 人、 職業 人を 育む 教育 の	1	ふるさと川南に学び、誇りや愛着を生む教育を推進する。 ・ふるさと学習の実施(秋季大運動会での川小音頭) ・町歌斉唱(儀式的行事等)	3.5	○ 運動会での川南音頭(川小音頭)の発表に向けて、夏季休業中に実技研修を実施した。 ○ 入学式や運動会等で町歌を斉唱したり、毎週火・木曜の始業前に町歌を放送で流したりしている。運動会前の指導では、町歌の歌詞を覚えたら応援賞の得点となるよう工夫し、意欲を高めた。 ○ 高齢者とのふれあい交流会を定期的(6月・12月)に開催し、地域住民との交流を図っている。	3.7	□ 入学式や運動会で元気いっばいに歌う町民歌には感動する。 □ 高齢者との「ふれあい交流会」を6、12月と実施し、地域住民との交流を図っているのは評価できる。 □ キャリア教育を週間を設け、全学年で実施しているのは大変よい。 □ 職業講話「よのなか教室」は、地域社会を知ることにつながり大変よい取組である。次年度以降も継続して実施し、いろんな立場の人の話を聞く機会を設けてほしい。
	2	地域課題解決に参画する意識や態度を育む。 ・ボランティア活動、あいさつ運動の推進		○ 6年生が毎朝、登校後にボランティア活動に取り組んでいる。 ○ 5年生が毎朝、登校後にあいさつ運動に取り組んでいる。		
	3	キャリア教育の推進を図る。 ・キャリア教育に係る諸活動の実践と年間指導計画の見直し(全学年での体験学習の実施)		○ キャリア教育週間(6月5日～9日)を設定し、地域の職業人の講話を全学年で実施した。 【6月11日宮崎日日新聞掲載】 ○ 9月15日に11職種15名の講師を招いての職業講話「よのなか教室」を実施した。(6年対象) 【9月19日宮崎日日新聞掲載】 ○ 2年続けて本校のキャリア教育の推進状況が評価され、11月2日の県民総ぐるみ教育推進研修会にて実践発表の場を与えられ、他の学校区へ啓発することができた。		
Ⅳ 魅力 ある 教育 を支 える 体制 や環 境	1	教職員の資質向上に努める。 ・授業研究を核とした校内外の研修、OJTの推進 ・学年部での授業の構築(1人1授業、相互参観授業の実施) ・服務規律の徹底(年3回以上のコンプライアンス研修)	3	○ 「全国学テ」(6年)や「みや学テ」の問題を全職員で採点し、分析を行ったことで児童の実態と本校の課題を共有することができた。 ○ 県教育研修センターの指導主事を講師に招き、国語科の授業づくりに関する講話や模擬授業をとおして、読む力を高める授業づくりの在り方について理論研究を行うことができた。 ○ 授業研究会や1人1授業をとおして、研究を深め、授業力向上につながった。 ○ コンプライアンス研修では、働きやすい職場環境づくりとして、学校全体で取り組むこと(ワンアクション)や個人で取り組むこと(ワントライ)を考えていった。	3.5	□ 児童が先生の話真剣に聞いている姿を見て、先生方の指導力を高く評価する。 □ 外部講師を招いた研修を実施するなど教職員の資質向上への取組がよい。
	2	安全教育の徹底に努める。 ・危機管理マニュアルの見直しと職員研修の充実 ・校内外の安全点検と防災教育の充実		○ 風水害時の避難訓練を実施し、DVDを活用して意識付けを図り、集団下校を実施した。 ○ 7名の保護者に協力してもらい、緊急時の保護者への児童引き渡しを、職員研修でシュミレーションした。→多くの課題が見つかったことで、本校規模での保護者への児童引き渡しはかえって安全性を保てないことが明らかになった。 ○ 夏季休業中に、高鍋警察署スクールサポーター(桂俊行氏)を外部講師として招き、不審者対策の職員研修を実施した。		□ 様々なことに目を向け、どうすれば学校がよくなるのかと、全員の先生方が取り組んでおられるのは評価できる。